

第 1 1 次 3 力 年 計 画

(自 2 0 2 2 年 4 月 1 日 至 2 0 2 5 年 3 月 3 1 日)



一般社団法人

日本自動車連盟

第1 1次3カ年計画（2022年4月～2025年3月）

1 計画策定の背景

JAFを取り巻く環境は、テクノロジーの進化や社会のデジタル化、C A S E※1やM a a S※2による自動車業界やビジネスモデルの大変革、新型コロナウイルスの流行をきっかけとした個人のライフスタイルやワークスタイルの多様化など、大きく変化し続けています。

社会の変化するスピードがますます加速していく中で、自社の強みを活かしながら環境変化に対応し、常にわくわくするJAFのあり方を描き出すため、未来志向の考え方を取り入れながら第1 1次3カ年計画を策定しました。

※1 Connected：コネクテッド、Autonomous：自動運転、Shared & Service：シェアリング/サービス、Electric：電動化の頭文字をとった造語で、自動車産業とモビリティの将来動向を示す言葉。

※2 Mobility as a Service の略で、一人一人の移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービス。また、観光や医療等の目的地における交通以外のサービス等とも連携することで利便性向上や地域課題の解決につなげる考え方。

2 JAFの向かうべき方向性と行動指針

(1) 第1 1次3カ年計画の目的

JAFの基本理念に沿って、「安全・安心な地域社会を支える」ことを目的としました。

(2) ビジョン

第1 1次3カ年計画の目的を達成すべく、会員の皆様をはじめとしたJAFに関係する多くの人々と対話することで、開かれたJAFの実現を目指すとともに、モビリティの進化や個人のライフスタイルの変化に対応したサービスを発信し続けることとし、「対話と共創により常に変化し続け、モビリティユーザーの生活を彩るJAFとなる」をビジョンとしました。

(3) 私たちの宣言

ビジョンを達成するため組織としての行動指針とは別に、職員個人の行動指針として以下のとおり私たちの宣言を定め、基本方針にも反映し

ました。

- ①「寄り添う」 困りごとのある場所・場面にいち早く駆け付けます。
- ②「向き合う」 相手の目線に立って、課題や要望に向き合います。
- ③「刷新する」 旧来の手法にとらわれず、常にチャレンジします。

3 基本方針

JAFの向かうべき方向性を達成するため、4つの基本方針を定めました。

(1) ロードサービスを起点とした自動車を取り巻く安全・安心の実現
人々が不安なく自動車を運転できる環境を作るべく、「より早く、より使いやすい」サービスとなるよう、ロードサービス車両の増車とサービスネットワークの拡充により救援体制を強化し、「より気軽に」使えるサービスとなるようデジタルツールを活用したサービスも検討します。

また、お客様の多様な声に耳を傾けながら、ロードサービスのデータも活用して安全・安心な社会づくりに繋がる啓発・発信活動を行います。

(2) 「モビリティの進化」を下支えする取り組みの推進

モビリティに関連するすべての人々にとって、なくてはならない存在となるべく、現在のステークホルダーとの連携をより強化します。

また、今までにないモビリティサービスの実現を後押しすべく、先進的なプレーヤーとのコラボレーションを推進します。

(3) 人々の暮らしを支え、彩る多様なサービスの提供

個人のライフスタイルの多様化に対応すべく、会員のみなさまとの接点を増やし、様々な課題解決に取り組むとともに会員サービスの向上を図ります。自治体や企業とのネットワークをさらに活用して人々の生活や地域社会を様々な角度からサポートします。

また、国内唯一の自動車ユーザー団体として、モータースポーツの振興や自動車と関連性の高いライフスタイルの支援を通じて、運転の楽しさを広く伝えます。

(4) 時代の流れに柔軟に対応できる組織の確立

個々人が部門の垣根を越えて社会のために働ける仕組みと風土を育て、時代の流れの急激な変化においても、新しい発想と技術で柔軟に

対応できる組織をめざします。

また、職員がそれぞれに合った働き方で自身の力を最大限発揮できる環境を整えます。

4 重点施策

4つの基本方針について、「データ活用」「デジタル化」「アライアンス強化」の推進により従来のアクションをより高度化し、「両利きの経営※」を実現するための行動案として、重点施策を策定しました。

※既存事業を深めていく「知の深化」と新規事業を展開する「知の探索」を両輪として企業を経営することの重要性を、右手と左手を自在に動かせる「両利き」になぞらえた経営論のこと。

- (1) ロードサービスを起点とした自動車を取り巻く安全・安心の実現
 - ・デジタルツールを介したさらに呼びやすいロードサービスの実現
 - ・ロードサービスの支援範囲拡張とその実現に向けた体制の強化
 - ・データ活用による啓発活動・地域貢献の進化

- (2) 「モビリティの進化」を下支えする取り組みの推進
 - ・強みを生かしたメーカー・ディーラーのバックエンド支援の推進
 - ・自動車関連データを活用した新たなサポート体制の確立
 - ・社会課題の解決につながるモビリティサービスの実現

- (3) 人々の暮らしを支え、彩る多様なサービスの提供
 - ・「自動車のある生活」の魅力を伝えるためのコラボレーションの推進
 - ・デジタルを活用した新しい車の楽しみ方の提案
 - ・地域・会員特性への理解にもとづいた自動車関連領域にとどまらない新たなサービスの検討

- (4) 時代の流れに柔軟に対応できる組織の確立
 - ・組織の「透明化」「活性化」につながる取り組みの促進
 - ・新たなチャレンジにつながる制度の構築
 - ・職務に応じた多様な働き方の検討